

③とうもろこしサイレージの黄熟期と完熟期との間に差はなかったが、1番早刈牧草サイレージよりやや低かったということです。つまり子実の豊富なとうもろこしサイレージは早刈牧草に匹敵する産乳効果があるということになります。前述しましたように、十勝地方においては、牧草を敵期に収穫することは極めて難しい状況にあることを考えますと、労力的にも収量的に格段に有利なとうもろこしの導入は必須条件であるともいえます。

8. おわりに

以上、とうもろこしサイレージの栽培と利用の

実態を見ながら、今後の方向を探ってみました。北海道第3期酪農近代化計画によりますと、牛乳生産量を2.1倍にひき上げようと計画しています。そうした中で、飼養頭数の増大だけではとうてい達成が難しいものと考えられます。

自給飼料の品質向上をはかると共に、乳用牛の資質改善をはかり、1頭あたりの生産量を増大させる必要があると思われます。

その意味から考えましても、集約的な経営を旨とする畑地型酪農の方向は更に重要性を増すものと考えられます。とうもろこしがその一翼を担うものであることを期待しつつ筆を置くしだいです。

果樹の種類と植え方について

園芸部 伊藤 奎太郎

最近、都市の家庭や農家においても、自家用果樹の植え付けが盛んになってまいりました。自家菜園もよろしいですが、家庭果樹も、なかなか捨てがたいものがあります。以下北海道における果樹の種類と植え方について説明いたしましょう。

① 種類と品種について

現在北海道で作られている果樹の種類をあげてみますと、リンゴ、梨、ブドウ、梅、杏、李、桜桃、小果樹としてはグスベリ、ベリー類等です。

これらの種類は寒い本道でも大抵のところでは

果樹の種類と耐寒温度

栽培限界温度	果 樹 の 種 類
零下20度C	桃、ブドウ
23	菓子クルミ、梅
25	日本梨、桜桃、日本栗
27	中国梨、洋梨、李
30	リンゴ、杏
35	クラブリンゴ

く育っておりますが、耐寒性はそれぞれ種類により異なっており、栽培限界温度と種類との関係を見ますと別表のとおりです。

また同一種類でも品種により耐寒性は異なり、例えば梅では、本道では豊後梅（北海豊後）以外では、府県でよく育つ品種は凍害のため育ちません。

梨についても千両のような中国梨の血の入っているものは、全道的によく生育いたしますが、日本梨の長十郎、二十世紀などは道南か、余市附近まで、それ以北では完熟いたしません。

ブドウは現在のところ全道的に見て、カメルス、デラウェアなどを中心に植付けが行われておりますが、ナイヤガラは札幌附近以南でよく完熟しますが、以北では無理です。また巨峰などは道南の一部を除いてよい果実は取れません。このように同一種類の中でも品種によって耐寒性の差があります。いま全道を大きく分けて見ると、3つの地帯になります。

1. 夏低温な地方 根釧地方、宗谷の大部分で、

夏低温で生育期間が短いので、熟期の早い早生リンゴ、梨では千両、日本李、杏などが育ちます。

2. 冬季温度の極端に下る地方 最低気温が-30℃内外に下る地方で、上川、十勝、北見地方の大部分と後志の山麓地帯で、リンゴ、中国梨、実生の李、杏、ブドウの早生系が出来ます。
3. 適温地帯 1~2の地方以外のところでは、先にあげた種類は大抵よく育ちますが、地形の関係や高いところでは局部的に変化があります。

次に品種について特に農家の自家用または庭園用を中心に説明いたします。

リンゴは自家用果樹としては不適當なので一応省略させていただきます。

梨には日本梨、中国梨、洋梨とがありますが、一般にどこでもよく育つのは千両(身不知)です。耐寒性も強く、作りやすく植えてから3年目位より結果し、果実も大きいです。日本梨はやや耐寒性も劣りますので、函館附近では長十郎がよく出来ますが、その他の地方ではよく育ちません。家庭果樹としておすすめしたいのは西洋梨で、肉質、味、香りも日本梨とは大分異なっておりますが、本道の気候にもよく適します。品種としてはパートレット、日面紅、また果実は小型ですが、非常に味のよいブランデーワイン、また貯蔵用としてはウインターネリスなどいろいろとありますが、一般にはよく知られているパートレットをおすすめいたします。なお洋梨の場合は収穫後1~2週間位追熟を要します。

ブドウは家庭用として手軽に植えられる果樹です。道内で植えられている品種は数も多いですが、2~3あげてみますと、キャンベルスアーリー(カメルス)、黒ブドウで房も粒も大きく、味もよろしいブドウです。デラウエアは茶色の小粒のブドウで、札幌附近では9月下旬が熟期です。なお現在、山梨、山形県等から種無しブドウとして8月中旬頃より入って来てますが、これはデラウエアをジベレリンで処理して核無しにした果実です。白ブドウとしては、生育極めて旺盛で作りやすいナイヤガラがありますが、札幌以北では冬の訪れの早い年には完熟いたしません。熟期は札幌附近で10

月上旬でしょう。このほか極早生の種無しブドウのヒムロット、また早生のポートランド(白)なども家庭用には最適です。

ブドウの場合、冬の寒さにすこし弱いので、秋末落葉しましたら剪定をし、地上に下ろし雪の下にしますと、冬季間の寒さによる被害がさげられます。また棚仕立ての場合、専業の方を除き一般の方々は、棚の上に枝を上げておりますが、前記の理由により冬季間地上におろすので枝を棚に吊して下さい。

梅は梅漬、梅干、梅酒用の原料等として非常に家庭用に普及している果樹です。品種としては豊後梅が寒さにも強く、よくなります。土地のあいっている方は、梅をまず1本植えて下さい。

桜桃、木は非常に高くなりますので、狭いお庭にはおすすめ出来ませんが、面積的に余裕のある方なら是非一本欲しい果樹です。余り手入れせずともよく育ち、7月の初めには札幌では美しい実を沢山見せてくれます。味もよく、初夏の果物としては最高です。おすすめする品種としては、実も大きく味もよいナポレオン、また雨に強い水門、味の非常によい佐藤錦等があります。なお一言つけ加えますと、果樹一般についてですが、自家不結実ということで、同一品種ではなかなか実が悪い場合があります。桜桃もその一つですので、出来ることならば異なった品種を組合せて植えることが望ましいです。また隣近所に植えられてあれば、その品種とは別な品種を植えて下さい。

桃は低温に弱いので余りおすすめ出来ませんが、冬囲いをよくされれば、札幌附近より以南ではよく育ちます。結果年齢も早く、植えてから3年目位よりよくなります。府県産の桃よりは自家産の桃は適熟期に収穫出来ますので味は全く異なり、同一品種でも比較にならない位よろしいです。

品種としては札幌附近では9月上旬に収穫出来る大久保、白鳳をおすすめいたします。両者共大変よくなり、味も極めてよく丈夫で作りやすい品種です。

李は8月上旬頃より逐次収穫されます。別名プラムと呼ばれており、味もよく丈夫で作りやすいです。品種としては大石早生、サンタローザ、ソルダム等がよろしいでしょう。

以上大果樹を中心として説明いたしましたが、グスベリ、カーラツツ、ブルベリーなどの小果樹も、最近では非常に植えられておりますので、また別の機会に説明いたしましょう。

② 良い苗木の選び方

苗木を購入される時は次の点に注意して良い苗を選んで下さい。

1. 品種系統の明白な苗木を購入すること
2. その土地の気候条件によく適合した種類と品種を選んで苗を購入すること。
3. 病虫害の付着していない苗木を選ぶこと、特に根頭癌腫病、ネマトーダ等の被害のないもの
4. 苗木は地上部がよく太って充実し、また根のよく張っているものを選ぶこと

③ 植え付け時期

春、秋、いずれでもよろしいですが、秋は11月上旬、春は4月下旬から5月上旬までが適期です。

なお冬期間積雪が多く枝が折れるようなところ、雪が少なく土が凍結するようなところでは、春の方が結果がよろしいです。なお秋の場合は11月中旬に多少雪があっても差支えありません。むしろよく充実しない苗木を早目に購入し、10月末に植えた場合、冬枯れのおそれがありますので、あわてずよく登熟した苗を多少おそくなくても購入の方が安全です。

またブドウ苗には自根苗と接木苗とがありますが、現在自根苗としてはカメルス、デラウエア、ナイヤガラ位です。あとの品種はそれぞれフィロキセラ（アブラ虫）に抵抗力ある砧木に接木した苗ですが、自家用ならばどちらでもよろしいです。

④ 苗木の到着後の手当て

特に春先に購入した場合、乾燥させますと活着がよくありませんので、品物が到着したらすぐ荷をほどき、直ちに仮植して下さい。余り根が乾いておりましたら、土の上から水をたっぷりやるか、水に漬けて下さい。

秋の場合は苗木を購入し、定植しない場合は、苗が凍らぬよう仮伏して、充分防寒して下さい。

⑤ 植穴の準備

植穴はおそくとも植え付け1ヵ月前には準備して下さい。春植えならば秋のうちに実施して下さい。穴の大きさは直径60cm、深さ60cm位が適当で堆肥を充分入れ、その上によく肥えた土を入れます。なお堆肥と一緒に過磷酸石灰、加里をよく混合して入れますと、後の根の発育に良い影響を与えます。

⑥ 植え付け間隔

専業とは異なりますが、2～3種類を植え付ける場合、大体3m四方に1本位が適当です。最初にか淋しいように思えますが、4～5年たてば丁度良くなります。

⑦ 植え付け時の注意

1. 苗木の根が乾燥気味の時は、植込みの1日位前から根を水に浸し十分に吸水させます。
2. 根は切断面を切り揃える程度で、極端に切り詰めないこと。
3. 地上部は根とのつり合いを保つため、切りつめた方が活着のために好結果を与えるので、ブドウでは地上30cm、梨、梅、桜桃等は地上80cm位に切りつめます。
4. 植え付けには、根を充分に拡げ、大体接目がかくれる位に土をかけて、軽く足でふみつけ、その後水を充分にかけて土を落ちつかせ下さい。量は大きな馬穴で1杯位をいっぺんにかけず2～3回位に分けて注ぎます。
5. 植え付け後、直ちに支柱を立て、風による動揺を防ぎ、敷藁等をして乾燥を防ぎます。

なお硫安等の窒素質肥料を植え付け直前に施用しますと、よく根焼をおこし枯れることがありますのでむしろ活着しましたら水に溶かして根元にやるとよろしいです。

以上、簡単に北海道での家庭用果樹を対象として種類と品種、植え方等を説明いたしました。

自宅のお庭で生産された果物は、購入して来た果物とはまた一味違った味がいたします。お宅のお庭にあった果樹作りをおすすめする次第です。